

供餅日○中

陽明門院、重日供之、然者至于重日者不可忌、但當第四夜有俗忌不見例

〔明月記〕天福元年九月廿七日戊辰、金吾來、密々示合在朝朝臣、日次事來月九日庚辰十一日壬午復。日此事自身衰日之外不憚他衰日、又不憚重復日、是依爲吉事如此云々。

○按ズルニ右ハ後堀河上皇他殿ニ移御ノ日次ナリ、

〔日申行事〕毎月一日は、藏人殿上の簡のはなち紙をしかへて、ふるきはなち紙のすゑおり返したるをのべて、人々の上日の數をかく、○中大かたついたちならびに重日には、あしき事を奏せず、式に見えたり、

〔曆林問答集下〕釋日遊第四十三

或問、日遊者何也、答曰、訪諸文日遊之說多矣、日遊所在尤有忌諱、夫日遊者天一火神也、日之精氣下、主宮舍内外而遊八方、主日精之故、名日遊也、自癸巳日至己酉日十七日在屋内、又戊巳日居屋舍内、餘日皆運轉八方、今曆所載者、只有屋舍内耳、八方遊行者皆略之、此日勿掃屋舍内、又婦人產期之時、避母屋移庇間無咎也、

〔頭書長曆上〕天一神遊行ノ方ハ、万事ニ凶ベシ、就中此ノ方ニ向テ、具ヲ立て、敵ヲ追、對決、臨產、穀生等ニキラフナリ、本文ニ產婦遁家臨產ノ時、常宅ヲノガレテ產屋ヘ入ル折節、天一遊行ノ方ニ向テ、行座スルコトヲ凶義ナリ、サテ天一天上シ玉フハ、癸巳ヨリ戊申マデ十六日ノアイダナリ、此ノ内ニハ、方角ノ祟リハナケレドモ、天一ノ臣下、日遊神、娑婆ニ下リテ、人家ヲ塞グ故ヘ、家内ニ於テ、其所座ノ方ヲバ不可汚、總而不淨騷動ノ義ニ凶也、

日遊神、民家ニ於テ所座ノ方、

癸巳ヨリ五日ノ間ハ家内ノ北方

戊戌ヨリ二日ノ間ハ同

中央